

今日の箇所では、新共同訳によれば、「神の義、神さまに対する人間の正しい関係の実現は、律法の行いによらず、イエス・キリストへの信仰による」というルターが言った信仰義認の内容が記されています。「神の義」というのは、神さまが自分の正しさを、正しくない人間に及ぼしてくださり、人間を正しい者と見なしてくださる、つまり、人間の根源的な罪を赦してくださるということです。しかし、このように訳されますと、「神の義」、神さまから救われるのは人間のもつ信仰だということになってしまうのです。神さまと人間との正しい関係が人間により左右できるものになってしまうからです。このような考えを発展させますと、「あなたが神さまから救われないのは信仰が足りないからだ」ということになってしまうのです。現在検討されています新しい日本語訳のパイロット版はここを次のように訳しています。「¹⁶しかし、わたしたちは人が律法の行いによるのではなく、イエス・キリストの信実によるのでなければ義とされないと知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。それは律法の行いではなく、キリストの信実によって義とされるためです。なぜなら律法の行いによっては誰一人として義とされないからです。」新共同訳の「(イエス・)キリストへの信仰」がパイロット版では「(イエス・)キリストの信実」と訳されています。聖書学者の田川建三氏や佐藤研氏などもパイロット版と同様に「キリストの信」などと訳しています。「信実」とは、広辞苑によれば、まじめでいつわりのないとの意味です。この「キリストの信実」という表現は新約聖書のなかでは一個所を除き、パウロの手紙にしか見られません。では、「キリストの信実」とはどのようなことでしょうか。文法的に考えれば、「キリストの信実」とは、会報 42号にも書きましたように、「イエス・キリストが顕している神さまに対する信実、誠実さ」という意味です。それは、「私たちがキリストを信じるから義とされる」のではないということです。また、パウロは、ロマ 3:22 で、「それは、イエス・キリストの信実によって生じる神の義であって、信じる者すべてに及ぶものです。」と記しています(パイロット版)。ここでは、「キリストの信実」とは、「イエス・キリストを通して明らかになった神の信実(神が信実な方である事実)」という意味です。まず、最初にイエス・キリストの信実による神の義があり、その義認されていることに私たちが気づき、受け入れることによって、神さまと応答することが信仰なのです。こちらからは、神さまへの応答しかないのです。「私のイエス・キリストへの信仰」が私を救うはずがありません。私を救うことができるのは、神さまだけだからです。